研究紀要　第9号　241－258頁　2001年3月
㈶とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター

下野国分寺跡・南大門出土瓦の分析

大橋（おおはし）　泰夫（やすお）

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　南大門の調査
Ⅲ　南大門出土瓦
Ⅳ　まとめ

下野国分寺跡の南大門出土瓦を分析し、所用瓦の復元を行った。その結果、再利用瓦が大半を占め、新調された瓦は少ないことが明らかになった。建物の造営・改修に伴って、瓦をどのように葺いたかを知る上で興味深いデータを得ることができた。

Ⅰ　はじめに

下野国分寺跡については、栃木県の主要遺跡の一つとして寺院地の範囲確認を主な目的に、昭和57年度から平成4年度までの11年間にわたって発掘調査が実施された。一連の調査の結果、寺域や伽藍の変遷が明らかになり、寺院地の範囲が非常に広大であったこと、伽藍地塀が掘立柱塀から築地塀に建て直されることなどが判明した（栃木県教育委員会1985～1999）。

筆者もこの一連の下野国分寺跡の調査・報告に関わり、出土した瓦についても報告を行った（栃木県教委1996・1997）。しかし、南大門については、初めて瓦葺きの礎石建物として建てられたのが、国分寺Ⅲ期（9世紀後半）であると指摘しただけであった（栃木県教委1999；10-16頁）。その南大門所用瓦についても、軒先瓦（鐙瓦・宇瓦）、文字瓦の出土点数を提示しただけであり、もっとも大量に出土した女瓦・男瓦についてほとんど報告を行うことができなかった（栃木県教委1997）。そこで、今回、報告を兼ねて南大門出土瓦について検討した。

Ⅱ　南大門の調査

調査前には、南大門推定地は、わずかに基壇状の地ぶくれとなっていたが、宅地・桑畑として利用されており遺構の残りは良くなかった。

南大門および取り付く南辺築地塀の調査は、昭和57・58年度に行われた。下野国分寺の変遷と南大門の遺構の詳細などについては、報告書（栃木県教委1985・1999）を参照していただくことにして、ここでは簡単にまとめておく。

(1)　下野国分寺の変遷

下野国分寺は伽藍地・寺院地を区画する塀や溝の建替えからⅠからⅣ期に分かれ、その年代は、Ⅰ期が８世紀中葉、Ⅱ期が８世紀後半代から９世紀前半代、Ⅲ期が９世紀後半代、Ⅳ期が10世紀以降である。

Ⅰ期は、金堂・塔など主要堂塔の造営期である。仮設的な仏堂と推定する掘立柱建物SB－650を、造営中の金堂東方に建てる。このSB－650は瓦葺きではない。

Ⅱ期は主要堂塔が完成し、主要堂塔を掘立柱塀で囲み、寺院地を溝で東西413m、南北457mと区画する時期である。Ⅱ期は塀の建替えからⅡ－Ａ・Ｂ期に分かれる。Ａ期伽藍地の規模は東辺長251.7m、南辺長231.3mであり、南北にやや長く、南門・中門・金堂・講堂・北門が中軸線上に並ぶ。このⅡ－Ａ・Ｂ期の堂塔は瓦葺きであるが、南門・北門は掘立柱式の棟門である。

Ⅲ期は伽藍地を大きく縮小し、掘立柱塀を築地塀に建替え、寺全体を大きく改修する時期である。東辺、西辺の位置はⅡ－Ｂ期を踏襲するが、北辺は45m南に、南辺は９m北に移し、伽藍地の規模は縮小する。このⅢ期に、南門（棟門）を瓦葺きの南大門に建替えている。ただし、築地塀全体は瓦葺きでなく、南大門に取り付く南辺塀の一部だけを瓦葺きにしている。なお、寺院地の溝は埋まり機能を失う。

Ⅳ期は、築地塀の側溝の掘り直しを行わない衰退期である。Ⅳ期に製作された補修瓦はなく、主要堂塔の補修もあまりされた形跡がない。また、このⅣ期は竪穴住居が築地塀外側に数多く展開する時期でもある。

下野国分寺の終焉は、まだ明確になっていないが、遺物・遺構からみると、少なくとも11世紀代までは寺として機能していたとみている。

以上が下野国分寺の変遷である。今回、取り上げる南大門はⅢ期（９世紀後半）に、掘立柱式の南門（棟門）を建て替えたものである。

(2)　南大門と塀の変遷

南門は、当初（Ⅱ期）は掘立柱塀に取り付く棟門であり、９世紀後半代（Ⅲ期）に、瓦葺きの南大門に建て替える。検討する瓦は、この建て替えられた南大門跡から出土したものである。

まず、南門と取り付く南辺塀の変遷を概観する（第１図）。

国分寺Ⅱ期（８世紀後半代から９世紀前半代）

当初（Ⅱ期）の南門は、掘立柱式の棟門であり、取り付く塀も掘立柱塀である。南門は、柱間が約3.9m（13尺）あり、一度建て替えられており、その際には柱間を約6.0m（20尺）と広くする。

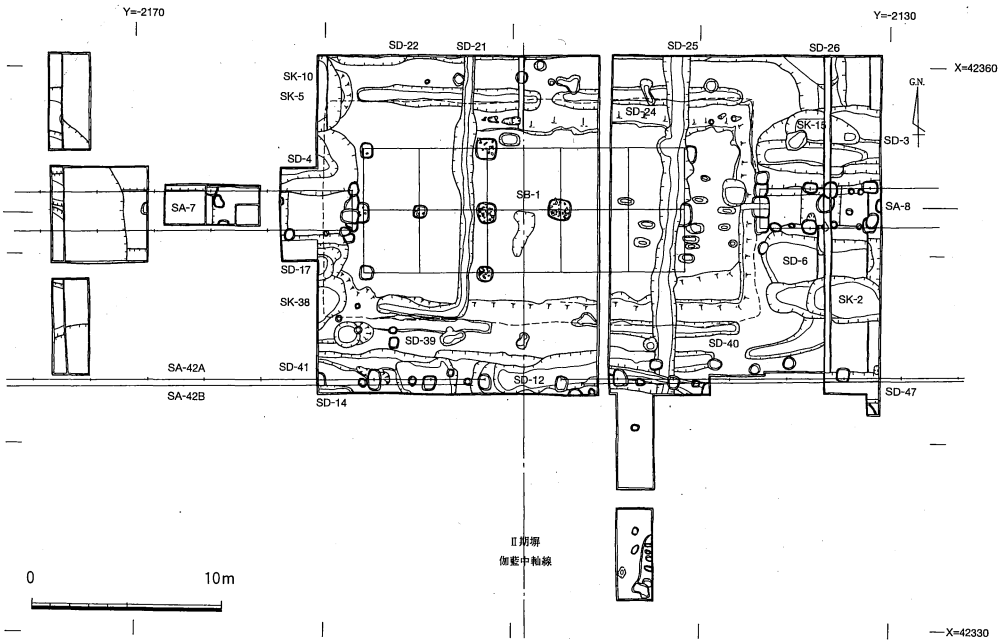
国分寺Ⅲ・Ⅳ期（９世紀後半代～10世紀以降）

Ⅲ期（９世紀後半）には、南門（棟門）を瓦葺の南大門に建て替え、その際に取り付く塀も掘立柱塀から築地塀へ作り替える。南大門の建物規模は桁行５間、梁間２間で、桁行総長約17.1m（57尺）、梁間総長約6.6m（22尺）である。柱間寸法は、中央間が3.9m（13尺）と広く、脇間が3.6m（12尺）、3.0m（10尺）と狭くなり、梁間は3.3m（11尺）等間となっている（第１図）。

基壇は掘込地業であり、地業規模は東西約24m、南北約12mの長方形である。版築土は約0.9mの厚さがあり、中に少量の瓦（時期不明）や川原石が入る。基壇の規模は、東西70尺（約21m）、南北32尺（約9.6m）と推定できる。

南大門は国分寺Ⅳ期（10世紀代）に改修されており、建物および基壇は当初の位置を踏襲し、礎石据方・根石や版築土にも改修は見られない。地覆石転用の凝灰岩や礫、川原石、瓦を用いて基壇側縁の化粧を直しており、一部に男瓦を基壇側縁に沿って並べた部分や地覆石を転用した部分がある。こうした状況から、基壇側縁の化粧は、凝灰岩の壇正積から簡単な瓦積基壇へ作り直されたと推定している。この改修された化粧部分には軒先瓦が含まれ、もっとも新しいものは国分寺瓦編年３-２期（９世紀後半）の鐙瓦８型式である。

また、この南大門SB－1造営期の土取り穴として、基壇周辺を巡るSD－12・22・24・41・43がある。埋め戻された埋土から瓦片（第６表）が少量出土しており、南大門造営前の瓦を明らかにする上で重要な資料となっている。



第１図　南大門全体図

南大門に取り付く南辺築地塀は、版築土下の旧表土が築地塀の基底部幅約2.3mとして遺っていた。南大門に取り付く付近にのみ、寄柱があり、この部分だけは瓦葺きの可能性がある。この築地塀内外に、幅3～6mの側溝（SD－3・6・4・17）が設けられ、埋土中から南大門および取り付く築地塀の所用瓦が多量に出土している。

こうした築地塀内外の側溝が埋まった後に、大型の土坑（SK－２・10・15・38）が設けられ、ここからも10世紀代の土器類とともに、瓦類が多量に出土している。

他に、近世の遺構として、南大門基壇上や基壇縁辺に溝・土坑（SD－25・11・21、SK－18、SX－19・27～37）があり、ここからも瓦類が出土する。

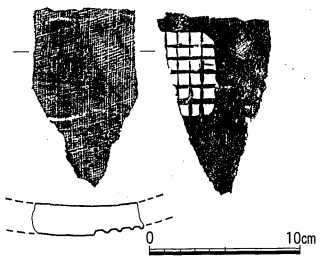
(3)　南大門の造営時期

南大門の造営時期を決める資料は以下のものである。

①南大門造営時の土坑SD－12・22・24・41・43出土瓦（第６表）

②築地塀下層の竪穴住居SI-462・696、築地塀の版築土中出土土器および瓦

南大門下層の遺構出土の瓦でもっとも新しいものは、南大門造営時の溝状の土取り穴SD－41から出土した型押文208B叩きの女瓦（第２図）であり、2-2期段階に位置付けることができる[1]。他に、2-1期の女瓦としては築地塀下層の竪穴住居のSI-462から型押文320、SD－12から型押文273、SD－24から型押文273・320が出土する。また、SI-462出土の型押文字瓦「寺Ⅱ・Ⅴ」、宇瓦４G型式も2-1期にあたる。



第２図　SD-41出土瓦：型押文208Ｂ

したがって、国分寺瓦編年でみると南大門は2-2期以降に建て替えられていることになる。南大門下層の土器については、「築地塀下層の遺構から出土した土器でもっとも新しいものは、在地の須恵器でみると大芝原B型式段階に併行する（第102・103図）。灰釉陶器では黒笹14号窯式～黒笹90号窯式段階である」（栃木県教委1999；103-105頁）と指摘したように、９世紀中葉頃に位置付けることができる。

こうした南大門下層および取り付く築地塀下層の瓦・土器から、南大門造営の時期は国分寺Ⅲ期（９世紀後半）となる。

Ⅲ　南大門出土瓦

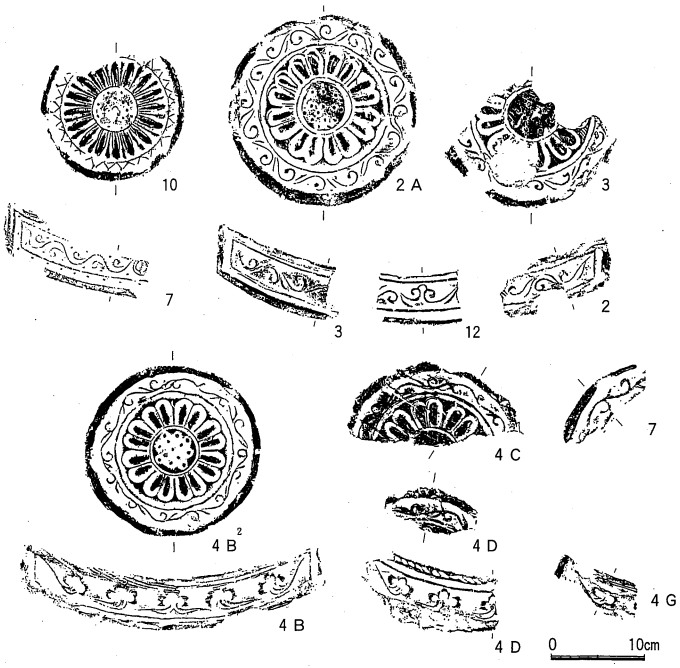
南大門地区（以下、南大門とする）から出土した瓦は、鐙瓦124点、宇瓦194点（第３表）、女瓦22,096点、男瓦9,540点（第５表）である。他に道具瓦として鬼瓦が３点、郡名・寺名などの文字瓦が1,339点出土している（第２表）。

(1) 軒先瓦

もっとも多く出土している軒先瓦は、鐙瓦４型式（35点）、宇瓦４型式（91点）の組み合わせであり、破片数でみると南大門出土の鐙瓦の28％、宇瓦の47％を占める。ただし、この鐙瓦・宇瓦４型式は８世紀中葉（国分寺創建期）から９世紀中葉（2-2期）までおよそ100年近くにわたって作られた軒先瓦であり、細かくみると、第４表に示すように、特定の時期のものばかりでなく、各時期にわたる。例えば、南大門から国分寺創建期1-1期の鐙瓦９型式が６点、宇瓦７型式が３点出土しており、これらは金堂創建段階の軒先瓦である。また、鐙瓦13型式や宇瓦1・13型式も金堂創建段階である。

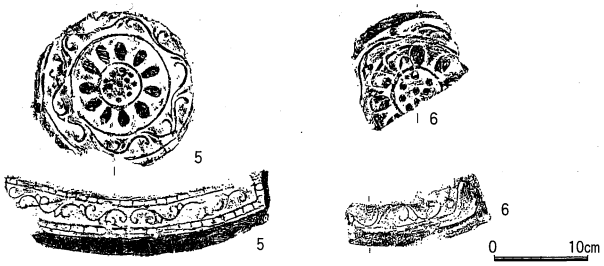
前述したように、南大門下層の遺構である、土取り穴（SD－12・24）などから2-1～2-2期（９世紀前半代）の女瓦が出土しており、この段階の軒先瓦は、鐙瓦４型式、宇瓦４型式の中で笵傷が進んだ鐙瓦4D型式、宇瓦4G・H型式に相当する。

したがって、南大門にもっとも多く葺かれた鐙瓦４型式、宇瓦４型式は南大門造営時の新調された軒先瓦ではなく、再利用瓦である。こうした瓦は、鐙瓦４型式、宇瓦４型式の他に、鐙瓦2・3・7・9・10～15・20・26型式、宇瓦1・2・3・7～10・12・13型式であり、ほぼ９世紀前半までのすべての笵種が南大門で再利用されていることになる（第３図）。



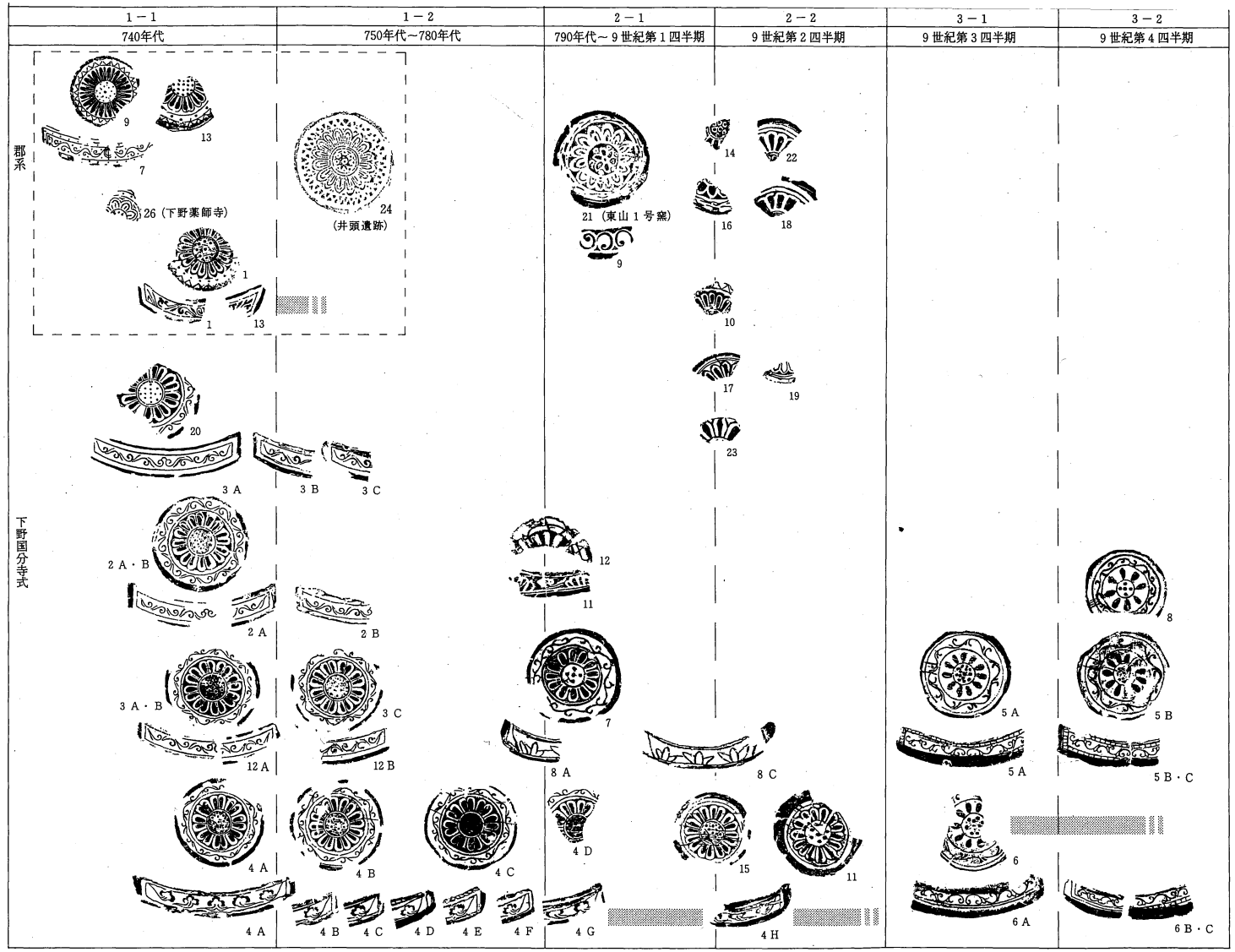
第３図　再利用された軒先瓦

一方、南大門造営時に新調された３期の軒先瓦は鐙瓦5・6型式（19点）、宇瓦5・6型式（53点）で、鶴舞瓦窯、八幡瓦窯、東山瓦窯産である[2]（第４図）。この新調された鐙瓦5・6、宇瓦5・6型式は、南大門出土鐙瓦の15％、宇瓦の27％を占めるだけである。



第４図　新調された軒先瓦

下野国分寺の全体の軒先瓦にお



第5図　下野国分寺跡出土軒先瓦の編年図

いてみると、「３期の瓦は国分寺では、鐙瓦で全体出土量の16％（652点中105点）、宇瓦で19％（700点中134点）を占める」（栃木県教委1997；79頁）ことがわかっており、南大門出土の3期の軒先瓦が占める割り合いは、国分寺全体の割合に近い。さらに、建物ごとに３期の軒先瓦（鐙瓦５・６、宇瓦５・６）の出土をみると、金堂で鐙瓦４％（23点中１点）、宇瓦13％（32点中４点）、塔で鐙瓦25％（48点中12点）、宇瓦16％（53点中８点）であり、南大門と同じく一定量が入っている。

こうした金堂・塔の３期補修瓦の比率から、９世紀後半代に主要堂塔の補修瓦として葺かれた量と南大門の新調された３期の瓦の比率には、それほど大きな差はないことがわかる。

以上の検討から、南大門造営時の軒先瓦は、大半が再利用瓦であり、新調されたものは少ないことが明らかになった。

(2) 女瓦

女瓦については、遺構内外を問わずすべての破片について、凸面の叩き・胎土などの特徴から、分類した[3]。具体的には、女瓦を遺構内と遺構外に分けた後、遺構内の女瓦を遺構毎に分類し、重量・隅数を集計した（第６・７表）。次に遺構外出土の女瓦についても、同じく重量・隅数の集計を行い、最終的に遺構内外の集計を行った（第５表）。

第５～７表に示したように、南大門から出土した女瓦は、軒先瓦と同じく、特定の時期ばかりではなく、１～３期までのすべての時期のものが含まれている。遺構内外すべての女瓦を個体数（枚数）で時期毎にみていくと、１期91.25、２期28.75、３期35.5、1～2期134.25（型押文不明と格子叩き狭端部）となる[4]。

この内、新調された３期の女瓦は13％ほどであり、女瓦の大半は1・2期の再利用瓦であり、全体の87％を占める。

国分寺創建期・1-1期には、桶巻作りと一枚作りの女瓦が供給されており、塔から桶巻作り女瓦はほとんど出土せず、金堂・中門から桶巻作り女瓦が一定量出土することが明らかになっている（栃木県教委1997；90-92頁）。なお、造営の順序は金堂・塔の順である。南大門出土の1-1期女瓦をみると、少量だが、桶巻作りの女瓦が出土していることがわかる。型押文224A・225B・227・228A・229・231B・232・234・241～243・490・627が、桶巻作り女瓦である（第５～７表）。こうした女瓦と組む軒先瓦である、宇瓦1・13型式もそれぞれ２点づつ南大門から出土している（第３表）。

これら桶巻作り女瓦および宇瓦1・13型式は、金堂創建段階のものである。

(3) 男瓦

男瓦については、狭端部を有段式と無段式に分類し、遺構毎に重量と狭端部、広端部の数を集計した。遺構外出土の男瓦についても重量・隅数を集計した（第５～７表）。下野国内にお

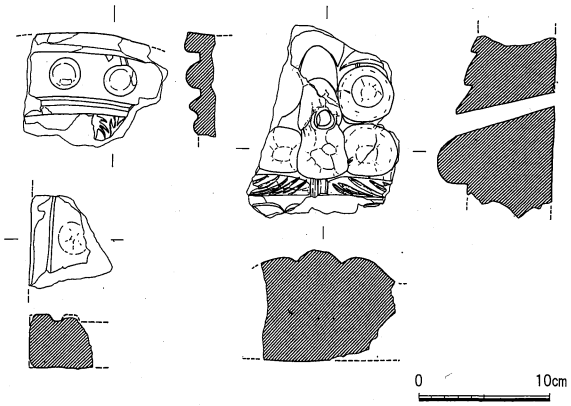
いて、有段式男瓦は国分寺創建期（1-1期・８世紀中頃）に時期が限定できるが、無段式のものは現段階では時期を限定できないために、各時期の男瓦の比率を明らかに示せない[5]。ここでは、国分寺創建期の有段式男瓦も出土しており、やはり軒先瓦・女瓦でみたように、再利用瓦が一定量入っていることを確認しておく（第１表）。この創建期・1-1期の有段式男瓦を細かくみると、南大門から金堂所用と考えられるB1型式がもっとも多く出土する。その一方、塔から多く出土するB2型式や、金堂から出土していないＡ型式も一定量含まれている。こうしたデータからみると、南大門に葺かれた有段式男瓦は、金堂創建段階のものが多いが、金堂には葺かれない塔創建段階の男瓦も使われていることが指摘できる[6]。

第１表　有段式男瓦の出土量（狭端部破片）

	南大門	金堂	塔
Ａ型式	2	0	2
B1型式	9	3	1
B2型式	3	2	12

(4)　道具瓦

道具瓦として鬼瓦が３点出土している。すべて鬼瓦１型式の破片である（第６図）。この鬼瓦1型式は笵傷進行から３段階（Ａ・Ｂ・Ｃ）あり、南大門地区から出土した３点の内、１点はもっとも笵傷進行した1C型式である。この1C型式は国分寺瓦編年2-2期（９世紀中頃）であり、新調の南大門所用瓦を焼いた鶴舞瓦窯の構築材に使用されている。したがって、出土した鬼瓦１型式は、南大門造営前の再利用瓦とみておく。南大門造営時の瓦窯である鶴舞瓦窯では、この鬼瓦１型式の系譜を引く鬼瓦２・３型式を生産しているが、南大門の調査ではこれまで出土していない。



第６図　南大門出土鬼瓦

なお、熨斗瓦は出土していない。これまでに、熨斗瓦は下野国分寺・尼寺跡からはまったく出土しておらず、焼成後に女瓦を半裁にした割熨斗を使用したのであろう。

(5)　文字瓦

南大門からは、文字瓦を記名法で分けると、押印48点・型押583点・ヘラ書708点の合計1,339点が出土している[7]（第２表）。この1,339点の内、郡名文字を主とする１～２期の文字瓦582点は再利用瓦である。新調された3-1期の文字瓦は、鶴舞瓦窯産の型押文字瓦「国分寺」である。この型押文字瓦「国分寺」は255点あるが、破片資料が多く一枚の女瓦に９回叩かれていることから、個体数は少なく、文字の数から集計すると14.6枚ほどになる[8]。

やはり、文字瓦においても再利用の1～2期の文字瓦が大半を占め新調された文字瓦として少量、型押文字瓦「国分寺」が入っている状況である。

⑹　小結

南大門出土瓦をまとめると再利用された瓦である、8世紀中葉から9世紀中葉（1～2期）の軒先瓦、女瓦、男瓦、道具瓦（鬼瓦1型式）が主体を占め、およそ8割を越すことが明らかになった。一方、新調された瓦である、軒先瓦（鐙 瓦5・6、宇 瓦5・6）、女 瓦（型押文字瓦「国分寺」および長縄叩き）などは少ないことを確認することができた。

第2表　文字瓦・堂塔毎の出土数

押印

内容	文字	南大門	金堂	塔	中門	時期
郡名	足利(足利)			5		1
	足（足利）	12		18	1	1
	梁田(梁田)				1	1
	田（梁田）	6	3	15	3	1
	安宋(安蘇)	9	3	10	3	1
	安（安蘇）		1			1
	都可(都賀)	12	4	19	2	1
	都（都賀）			1		1
	寒川(寒川)	4		16	1	1
不明	Ⅰ	2		1		1
	Ⅱ			1		3
	Ⅲ			1		3
	Ⅳ	1				3
	不明	2		6	1	
小計		48	11	93	12	

型押

内容	文字	南大門	金堂	塔	中門	時期
郡名	足（足利）	1	3	2		1
	田(梁田)		5			1
	都可(都賀)	86	34	10	14	1
	芳（芳賀）	5	1			1
寺名	国分寺瓦	2		2		2
	寺	234	20	5	25	2
	国分寺	255	109	54	19	3
小計		583	172	73	58	

ヘラ書

内容	文字	南大門	金堂	塔	中門	時期
ヘラ書郡名	足（足利）	8	6		1	1
	矢（梁田）	2				1
	田（梁田）	29	11		2	1
	安（安蘇）	37	5	2		1
	都（都賀）	2				1
	可（都賀）	30	9			1
	川（寒川）	42	9	12	2	1
	内（河内）	4		4		1
	塩（塩屋）	2				1
	那（那須）	10	2			1
地名	安田後	13	2	3		1
	赤見	15	4	2		1
	赤		2			1
	見	1	1			1
人名	酒		1			1
	郡	2				2
	生	8		1		1
	十	2				2
	瓦	1				2
	二瓦	1				2
	子	1				2
	上	1				2
	中	1		1		1
	大文		1	1		1
	大	3				1
	大成	1		1		1
	不明	492	87	57	20	
小計		708	140	84	28	

Ⅳ　まとめ

これまでみたように、南大門所用瓦の特徴をあげると以下の通りである。

下野国分寺の創建期から平安時代（8世紀中から9世紀後半代）までの瓦が葺かれており、量的にもっとも多いのは1・2期（8世紀中～9世紀中）の再利用された瓦である。南大門用として新調された3期の瓦は、少ない。なお、この3期の瓦は、鐙瓦で全体の16%（652点中105点）、宇瓦で19%（700点中134点）を占める。南大門だけに葺かれたのではなく、金堂・中門・塔跡からも一定量出土しており、差し替え用としても使われている（栃木県教委1997；79頁）。

このように、9世紀後半代に建てられた、下野国分寺・南大門の所用瓦をみると、新調された瓦が少なく、再利用された瓦が8割を超えることが、明らかになった。

問題は、再利用された瓦をどのように調達したかである。

これまで軒先瓦、女瓦、男瓦で見たように、8世紀中葉の金堂創建段階、塔創建段階から9世紀中葉頃までの、ほぼすべての時期の瓦が南大門に葺かれたいたことが判明している。

こうした状況から考えられることとして、以下の二案がある。

A案：下野国分寺内の金堂・塔などのを含めた複数の建物に使用されていたものを一部、再

利用したとみる見方。9世紀後半は、南大門の造営だけでなく、主要堂塔を大規模に改修している時期であり、そうした堂塔の改修・整備とともに南大門が造営されたために、複数の建物の瓦が南大門に再利用されたと考える。ただし、金堂・塔は、この時期に南大門とともに建っており、その一部を再利用すると考えるのは無理があるようにも思える。

B案：下野国分寺の堂塔の瓦を再利用したと考えるのではなく、他の某所に建っていた建物の瓦を再利用したとみる見方。再利用瓦が多い状況は、長岡宮、平安宮などのように、建物そのものを移築する場合にしばしばみられるものである。ただし、南大門の場合、再利用された某所の建物を特定できないという難点がある。

今回、南大門の再利用された瓦が本来、使用されていた建物については、明確にできない。今後の課題としておきたい。

もう一つの問題として、9世紀後半に下野国分寺跡において南門を棟門から南大門へ、塀を築地塀に建て替えるだけでなく、主要堂塔全体を大規模に修理していることである。同じ時期に下野国分尼寺も塀を築地塀に建て替え、主要堂宇の瓦を差し替えてている。

こうした建物の改修・整備は、下野国分寺・尼寺だけではなく、瓦からみると、下野薬師寺跡、大慈寺跡でも同様な状況が窺える。下野薬師寺跡では、この時期に伽藍東側に塔が建立される（大川 清・須田 勉他1996)。大慈寺跡についても八幡瓦窯で国分寺南大門の所用瓦である型押文字瓦「国分寺」と、大慈寺所用瓦である型押文字瓦「大慈寺」が焼かれている（大川1976；図版295)。ただし、どのような建物に使われたかは、大慈寺跡については調査が行われておらず、不明である。さらに、八幡瓦窯産の瓦は、寺院だけでなく、下野国府跡、国府野遺跡（足利郡衙）にも供給される。

以前、これら三毳山麓窯跡群内の官寺・官衙に供給するための瓦窯である、鶴舞瓦窯・八幡瓦窯・東山瓦窯などについて、国衙が主体的に関わった工房と指摘した（栃木県教委1997)。南大門の造営を含む下野国分寺・尼寺の大規模な改修、下野薬師寺の塔造営、下野国府や郡衙の改修などにも、こうした国衙が関わった瓦窯の製品がほぼ同じ時期・9世紀後半代に供給されていることは、重要な問題である。この時期、国衙が主体的に国内の寺院・官衙の整備に関わっていることを明瞭に示していると考える。

今後、こうした9世紀後半に一斉に行われた、下野国内の寺院・官衙整備の要因を解明していく必要もあると考えている。

本稿をなすにあたって、再利用瓦をどのように評価すべきかについては、網 伸也氏との討論の中でいろいろとご教示をいただいた。記して謝意を表します。

註

(1) 型押文208は、2-2期の宇瓦８C型式に叩かれている。

(2) 新調された軒先瓦である鐙瓦５・６、宇瓦５・６型式は、三毳山麓窯跡群内の鶴舞瓦窯、八幡瓦窯、東山瓦窯産である。瓦笵の傷み進行から、鶴舞瓦窯、八幡瓦窯、東山瓦窯の順に新しい。これらすべてが南大門造営時のものかどうかは不明であり、瓦笵の傷みが進んだ八幡瓦窯、東山瓦窯産（鐙瓦5B・6、宇瓦5B、宇瓦6C）は、補修瓦とみるべきだろう。

(3) 女瓦の分類・型押文番号は栃木県教委1997による。報告段階では型押番号は482までしかなかったが、新たに増えた型押文があり、485から番号を付けた。増えた型押文については未報告である。

(4) 個体数は隅数で計算した。隅数が１期367、２期115、３期142、１～２期537（型押文不明と格子叩き狭端部）あり、91.25（367/4）、28.75（115/4）、35.5（142/4）、134.25（537/4）となる。

(5) 創建期（1-1期）の男瓦は、有段式だけでなく、無段式もあるので、再利用された創建期の男瓦の割合いはさらに高くなる。

(6) 金堂・塔の有段式男瓦の出土量は、栃木県教委1997；93頁の第43図による。

(7) なお、文字瓦については、時期を分け女瓦・男瓦ごとに一点づつ隅数を数えていない。そのため、第5～7表の女瓦・男瓦の出土点数には文字瓦の点数は含まれていない。

(8) 個体数の計算は以下の手続きで行った。「国分寺」の総破片255点を１点毎に、「国」「分」「寺」字を数えた。「国」字が131点、「分」字が117点、「寺」字が93点となる。「分」「寺」字が「国」字より少ないのは叩き板の先端から「国分寺」と刻まれており、「国」字は残るが、手元の「分」「寺」字は打ち込まれないことがあるためである。ただし、各文字の点数は女瓦の点数でなく叩いた回数を示す。型押文字「国分寺」は一枚の女瓦あたり９回ほど叩くことから、叩いた回数を９で割ると「国分寺」の枚数を計算できる。計算の結果、131÷９=14.6枚となる。

参考文献

秋元陽光・保坂知子　1997『多功遺跡Ⅲ』　上三川町教育委員会

足利市教育委員会　1987『國府野遺跡・第９次調査報告』

岩淵一夫　1988「『愍諭弁惑章』に見る古代下野国の歴史的背景」『栃木県考古学会誌』第９集　栃木県考古学会

大川　清　1974、1976『古代下野の窯業遺跡』（資料編、本文編Ⅰ・Ⅱ）　栃木県教育委員会

大川　清　1982『水道山瓦窯跡群』　宇都宮市教育委員会

大川　清・河野一也　1989『栃木県馬頭町荒神平瓦窯跡』　日本窯業史研究所報告第27冊

大川　清・須田勉他　1996『下野薬師寺跡Ⅳ』　栃木県南河内町教育委員会

大金宣亮編　1982『第４回　関東古瓦研究会資料（栃木県）』

国分寺町教育委員会　1969『下野国分尼寺跡』

小森紀男・太田晴久　1986「下野国分寺（塔基壇）調査報告」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』栃木県埋蔵文化財調査報告第81集

田熊清彦　1981「④　下野国分寺跡」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』　栃木県教育委員会

田熊清彦　1990「下野国府跡Ⅸ」　栃木県教育委員会

栃木県教育委員会　1973『下野薬師寺跡発掘調査報告』

栃木県教育委員会　1985『下野国分寺跡Ⅰ　－昭和57・58年度発掘調査概報－』

1986『下野国分寺跡Ⅱ　－昭和59年度発掘調査概報－』

1987『下野国分寺跡Ⅲ　－昭和60年度発掘調査概報－』

1988『下野国分寺跡Ⅳ　－昭和61年度発掘調査概報－』
1989『下野国分寺跡Ⅴ　－昭和62年度発掘調査概報－』
1990『下野国分寺跡Ⅵ　－昭和63年度発掘調査概報－』
1991『下野国分寺跡Ⅶ　－平成元年度発掘調査概報－』
1992『下野国分寺跡Ⅷ　－平成２年度発掘調査概報－』
1993『下野国分寺跡Ⅸ　－平成３年度発掘調査概報－』
1994『下野国分寺跡Ⅹ　－平成３年度発掘調査概報－』
1995『下野国分寺跡Ⅺ　－墨書土器・施釉陶器編－』
1996『下野国分寺跡Ⅻ　瓦・図版編』
1997『下野国分寺跡Ⅻ　瓦・本文編』
1998『下野国分寺跡ⅩⅢ　遺物編』
1999『下野国分寺跡ⅩⅣ　遺構編』

挿図典拠

第１・５・６図：栃木県教委1999、第２図：大橋作成、第３・４図：栃木県教委1985

第３表　軒先瓦・堂塔毎の出土数

鐙瓦

笵種		南大門	金堂	塔	中門	総数	時期
1				1	1	3	1-1
2	A	13		2	1	23	1-1
	B	4		3	2	25	1-1
3	A					8	1-1
	B	8		1		26	1-2
	C	3	1		1	23	1-2
	不明	11	1	4		104	1
4	A	10	2		2	29	1-1
	B	7	1	10	2	56	1-2
	C	10	2	2		62	1-2
	D	3	1			15	2-1
	不明	5				15	
5		6	1	3		38	3
6		13		9		47	3
7		3	3	1		18	2-1
8		3	2	5		20	3-2
9		6	2		2	28	1-1
10		2		1		7	2
11		3	4	3		28	2-2
12		4		1		12	2
13		2				5	1-1
14		1				1	2
15		4	2	1		29	2-2
16						2	2
17						2	2
18			1	1		9	2
19						1	2
20		2				7	1-1
21						3	2
22						2	2
23						1	2
24						1	1-2
25		1				1	3
26						1	1-1
合計		124	23	48	11	652	

宇瓦

笵種		南大門	金堂	塔	中門	総数	時期
1		2				3	1-1
2	A	8	1	9	2	42	1-1
	B	1				13	1-2
3	A	6		1	1	27	1-1
	B	3				9	1-1
	C	6	3			18	1-2
	不明	3	1	1		11	1
4	A	9	1	4		53	1-1
	B	22	3	1	1	96	1-2
	C	3				6	1-2
	D	3				5	1-2
	E	2		3		24	1-2
	F	14	3	2		35	1-2
	G	25	3	4	1	56	2-1
	H	11	6	8	2	56	2-2
	不明	2		3		34	
5	A	4				12	3-1
	B	10		2		23	3-2
	C	13			1	19	3-2
	不明	15	1	3	1	27	3
6	A	8	2	6		42	3-1
	B					2	3-1
	C	3	1			8	3-2
	不明				1	1	3
7		3	4		2	20	1-1
8	A	1	1			4	2-1
	B					0	2-1
	C	2			1	4	2-2
9		4	1		1	9	2-1
10		1				1	2
11				1		1	2-1
12	A	5				20	1-1
	B	3	1	3		16	1-2
	C					0	1-2
	不明					1	1
13		2				2	1-1
合計		194	32	51	14	700	

第４表　時期毎の軒先瓦出土数

鐙瓦　　( )は％

時期	南大門	金堂	塔	中門	総数
1	11(8.9)	1(4.3)	4(8.3)	-	104 (16)
1-1	37(29.8)	4(17.4)	6(12.5)	8(72.7)	129 (19.9)
1-2	28(22.6)	4(17.4)	13(27.1)	3(27.3)	168 (25.8)
2	7(5.6)	1(4.3)	3(6.3)	-	40 (6.1)
2-1	6(4.8)	4(17.4)	1(2.1)	-	33 (5.4)
2-2	7(5.6)	6(26.1)	4(8.3)	-	57 (8.7)
3	20(16.1)	1(4.3)	12(25.0)	-	86 (13.2)
3-2	3(2.4)	2(8.7)	5(10.4)	-	20 (3.1)
不明	5(4.0)	-	-	-	15 (2.3)
合計	124	23	48	11	652

宇瓦　　( )は％

時期	南大門	金堂	塔	中門	総数
1	3(1.5)	1(3.1)	1(2)	-	12(1.7)
1-1	38(19.6)	6(18.8)	14(27.5)	5(35.7)	176(25.1)
1-2	54(27.8)	10(31.3)	9(17.6)	1(7.1)	213(30.4)
2	1(0.5)	-	-	-	1(0.1)
2-1	30(15.5)	5(15.6)	5(9.8)	2(14.3)	70(10.0)
2-2	13(6.7)	6(18.8)	8(15.7)	3(21.4)	60(8.6)
3	15(7.7)	1(3.1)	3(5.9)	2(14.3)	28(4.0)
3-1	12(6.2)	2(6.3)	6(11.8)	-	56(8.0)
3-2	26(13.4)	1(3.1)	2(3.9)	1(7.1)	50(7.1)
不明	2(1.0)	-	3(5.9)	-	34(4.9)
合計	194	32	51	14	700

第5表　南大門地区出土女瓦一覧表（遺構内外の合計）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	522	87,748	82	1-1
	短縄B2（三轟）	924	166,346	121	1-1
	短縄B1orB2	1,326	132,300		1-1
	長縄	1,490	290,569	142	3
格子叩き	2	1	57		2-1
	3B	1	86		2
	15	4	1,560		2-1
	17	8	1,527		2-2
	17B	2	611		2-2
	17C	2	192		2-2
	17AorB	1	178		2-2
	17BorC	5	848		2-2
	18A	1	373		2
	18B	7	2,730	2	2
	18AorB	1	305	1	2
	19	34	6,556	2	2
	21	1	684	1	2
	23	31	10,546	3	2
	24	1	168		2
	25	3	440		2
	27	1	291		2
	28	113	17,477	6	2
	29	22	6,618	1	2
	31	25	7,734	3	2
	32c	2	915	1	2
	33	1	261		2
	35	2	221		2
	37	6	1,171		2
	40	1	126		2
	44	1	131		2
	50	1	256		2
	54	2	298		2
	58A	11	3,003	3	2
	58	7	1,921		2
	60	7	1,180		2
	64	7	822		2
	69	2	460		2
	70	1	270		2
	71	5	2,996		2
	76	2	326	1	1-2
	76A	50	14,019	5	1-2
	76B	5	1,265	1	1-2
	76C	10	3,110	1	1-2
	76AorB	2	525	1	1-2
	76BorC	4	563		1-2
	79	1	238		2
	88	1	82		2
	89	1	653	1	2
	91	1	173		2
	109	3	1,481	1	2
	110	1	85		2
	115	2	329		2-1
	116C	1	308		2
	121	1	118		2
	130	1	189		2
	138	4	1,656		2
	167	2	126		2
	170	1	161		2
	173	4	433		2
	174A	2	452		2
	180	5	862		2
	184	15	3,905	4	2
	192	6	2,499	2	1-2
	201A	1	324		2-2
	201B	1	737		2-2
	201AorB	9	1,531		2-2
	201AorBorC	1	114		2-2
	202	83	25,987	7	2-2
	203	14	4,697		2-2
	205	8	1,043		2
	206	3	918		2
	207	1	75		2
	207A	4	464		2
	207B	5	1,507		2
	207C	2	713		2
	207AorB	2	409		2
	207AorBorC	2	451		2
	207BorC	4	431		2
	208	49	12,956	6	2
	209	2	508		2
	210	1	215		2
	211	4	351		2-1
	212	1	266		2
	213	233	52,606	25	2-2
	215	21	3,720	1	2
	217	3	1,177		2
	219	3	1,117		2-1
	219A	2	544		2-1
	219B	28	11,030	3	2-1
	222	2	712		2
	224	31	5,504	1	1-1
	224A	6	735	1	1-1
	224C	4	1,151		1-1
	225A	63	13,897	2	1-1
	225B	5	1,497	1	1-1
	225AorB	2	215		1-1
	226	3	1,179		1-1
	227	1	457		1-1
	227AorB	10	2,059		1-1
	228	1	487		1-1
	228A	3	1,257		1-1
	229	2	420		1-1
	231B	7	1,829		1-2
	232	2	542		1-1
	233	4	1,268		1-1
	234	1	146		1-1
	241	1	385		1-1
	242	2	473		1-1
	243	6	1,249		1-1
	245	15	3,815	1	1-2
	246A	2	1,010		1
	246B	1	396		1
	246E	2	870	1	
	247	111	24,707	11	1-1
	248	60	14,753	3	1
	249	42	10,871	3	1-2
	250A	9	1,746		1-2
	250B	34	7,311	2	1-2
	250AorB	2	360	1	1-2
	251	11	1,931		1-2
	252A	31	6,703	3	1-2
	252B	20	4,327		1-2
	252AorB	6	1,361		1-2
	253	1	901		3-2
	256	10	3,806	1	1-2
	257	8	3,126		1-2
	258	8	2,929	2	1-2
	261	2	329		2-2
	262	21	5,473	3	1-2
	265	19	4,487	5	1-2
	266	1	776		
	268	1	233		1-2
	269	5	1,724	1	1-2
	270	6	2,619	3	1-2
	271	60	15,115	10	1-2
	272	6	1,430	1	1-2
	273	85	22,499	6	1-2
	274	45	9,546	2	1-2
	275	1	336	1	1-2
	276	25	6,678	4	1-2
	278	9	2,732	1	1-2
	279	5	1,374		1-2
	280	3	1,447	2	1-2
	281	1	346		1-2
	281A	9	2,333	2	1-2
	281B	3	1,174		1-2
	282	2	776	1	1-2
	284	19	4,573		1-2
	285	21	4,477		1-2
	286	6	2,102		1-2
	286A	12	3,679		1-2
	286B	32	7,960		1-2
	286AorB	2	424	1	1-2
	288	2	993		1-2
	290	73	19,672	11	1-2
	291	46	10,521	8	1-2
	292	3	642		1-2
	293	41	9,612	5	1-2
	294	2	1,086	1	1-2
	295	2	440		1-2
	297	3	3,120	2	1-2
	300	37	8,636	5	1-2
	301	16	4,203		1-2
	302	42	8,894		1-2
	305	50	13,160	5	2-1
	307	3	1,073		1-2
	308	1	539		1-2
	308A	11	2,834	1	1-2
	308B	6	1,448	2	1-2
	309A	2	718	1	1-2
	313	4	918		1-2
	315	3	666	1	1-2
	317	4	1,766		1-2
	320	88	26,493	10	1-2
	326	2	477		1-2
	329A	3	770		1-2
	329E	1	98		1-2
	333	1	93		1-2
	334	5	1,086		1-2
	335	1	271		1-2
	339	1	373		1-2
	340	1	724		1-2
	342	17	5,708	4	1-2
	343	6	869		1-2
	344	16	6,238	7	1-2
	351	1	450		1-2
	356	2	786	1	1-2
	357	2	1,040	1	1-2
	359	1	121		1-2
	364A	1	558		1-2
	369	3	1,638		1-1
	370	1	320		1-1
	375	23	9,098	7	2-1
	379	1	323		1-2
	380	5	1,881	2	2-1
	383	2	497		1-2
	384	2	933	1	2
	385	4	774	1	2-2
	387	3	895	1	2-1
	390	1	407		2
	391	1	576		1-2
	392	5	1,636	1	1-2
	395	7	1,819		1-2
	397	6	1,318		2
	398A	6	2,052		1-2
	398B	13	2,338		1-2
	402	2	973	1	2
	403	1	285		2
	406	2	597	1	2
	408	1	114		2
	415	1	161		2-2
	420	4	536	1	2
	425	4	1,074		1-1
	432	1	331		2
	437	1	82		2
	442	2	891		1-2
	443	1	345		2
	445	1	293		1-2
	450	7	2,573		2-1
	451	1	212		2
	453	1	330		2
	454	4	1,694	1	2-1
	458	10	3,103	1	2
	460	1	224		2
	462	1	350		2
	464	17	7,484	1	2
	465	2	685		1-2
	466	52	15,374	6	1-2
	474	88	22,236	11	2
	475	6	1,525		2-1
	477	21	5,077	2	2
	479	1	138		2
	483	1	223		2
	484	3	1,113		1-2
	485	2	298		2
	490	1	487		1-1
	494	6	879		1-2
	495	1	724		2
	496	1	242		2
	503	1	251		2
	509	9	4,266	1	2
	512	1	274		2
	514	1	163		2
	515	3	696		2
	526	2	480	1	1-2
	527	13	3,234	2	2
	529	4	1,970	1	2
	531	63	10,140	2	2
	532	6	2,404	3	2
	533	2	800	1	1-2
	536	1	99		1-2
	538	10	2,249		2
	538A	13	3,958	2	2
	549B	4	777	1	1-2
	554	2	240		1-1
	558	1	123		1-2
	562	1	275		1-2
	564	5	1,156	1	1-2
	577	3	896		2
	581	1	267		2
	583	1	152		2
	586	49	11,626	4	2
	591B	9	2,174	1	2
	602	1	114		1-2
	611	1	444		2
	612	1	806		2
	613	1	296		2
	614	1	922	1	2
	615	1	353		2
	616	2	899		2
	617	1	273		2
	618	1	294		2
	619	1	452		2
	620	1	262		2
	621	1	785		2
	622	1	409		2
	623	1	427		2
	625	1	308		2
	626	2	1,046		2
	627	1	599		2
	628	1	586		2
	629	1	252		2
	630	1	586		2
	631	1	276		1-2
	632		209		2
	633	1	144		2
	平行	183	23,135	2	1-1
	番号不明	7,172	859,457	162	1～2
	叩きなし	7,756	571,332	375	1～2
	合計	22,096		1,166	

②男瓦

	型　式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式（狭端部）	A（水道山）	25	9,838	2	1-1
	B1（三轟）	93	18,142	9	1-1
	B2（三轟）	119	36,994	3	1-1
無段式（狭端部）	（水道山）				
	（三轟）	553	123,227	431	
広端部	（三轟）	726	167,611	359	
筒部破片	（三轟）	7,992	768,742	1,455	

粘土紐巻男瓦

狭端部	（三轟）	2	192	1	2
広端部	（三轟）	3	309	1	2
筒部破片	（三轟）	27	1808	2	2
	合計	9540		2263	

第６表　南大門地区遺構内出土女瓦一覧表

ＳＢ－1出土瓦(南大門)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	5	696	2	1-1
	短縄B2(三轟)	2	947	1	1-1
	短縄B1orB2	3	464		1-1
	長縄	3	2,041		3
格子叩き	19	1	145		2
	121	1	118		2
	202	2	739		2-2
	219	1	127		2-1
	225AorB	1	129		1-1
	227	1	457		1-1
	245	1	480		1-2
	247	1	811		1-1
	273	3	1,183	1	1-2
	290	2	698		1-2
	300	1	199		1-2
	320	1	470	1	1-2
	398B	1	143		1-2
	474	1	454	1	2
	不明	22	2,004		1～2
	叩きなし	18	1143		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B1 (三轟)	1	247		1-1
	B2 (三轟)	3	1,514		1-1
無段式(狭端部)	(三轟)	6	1,541	6	
広端部	(三轟)	4	1,275	3	
筒部破片	(三轟)	42	5,627	10	2

ＳＫ－2出土瓦(Ⅳ期の土坑)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	31	5,056	9	1-1
	短縄B2(三轟)	31	5,372	2	1-1
	短縄B1orB2	45	4,905		1-1
	長縄	36	12,854	7	3
格子叩き	17BorC	1	285		2-2
	19	4	1139	1	2
	23	8	1,930		2
	27	1	291		2
	28	24	3,502	1	2
	31	2	394		2
	35	1	138		2
	58A	1	587	1	2
	60	1	82		2
	64	1	32		2
	69	1	349		2
	76A	2	614		1-2
	76	2	326	1	1-2
	91	1	172		2
	192	1	339		1-2
	202	8	4,264	3	2-2
	203	4	1,253		2-2
	207B	2	272		2
	207C	1	250		2
	208	2	299		2
	213	9	3,296	1	2-2
	215	1	210		2
	219	1	432		2-1
	219B	1	647	1	2-1
	224A	2	379	1	1-1
	225A	2	813	1	1-1
	243	1	146		1-1
	247	4	952	1	1-1
	248	4	591		1
	249	3	619		1-2
	250A	3	308		1-2
	251	1	178		1-2
	252AorB	3	619		1-2
	252B	1	73		1-2
	256	1	685		1-2
	265	3	889		1-2
	270	1	310	1	1-2
	271	1	167		1-2
	273	3	419		1-2
	274	5	1,362		1-2
	276	3	442		1-2
	278	1	299	1	1-2
	280	1	399	1	1-2
	284	1	214		1-2
	285	3	443		1-2
	286	2	1,245		1-2
	286B	1	139		1-2
	290	4	609	1	1-2
	291	3	578		1-2
	293	6	966		1-2
	297	2	2,990	2	1-2
	300	5	1,337		1-2
	302	1	157		1-2
	305	1	476	1	2-1
	313	1	271		1-2
	320	5	1,459		1-2
	342	3	1,149	1	1-2
	375	2	754		2-1
	387	1	278	1	2-1
	390	1	407		2
	392	1	42		1-2
	403	1	285		2
	420	4	536	1	2
	460	1	224		2
	474	6	2,806	2	2
	475	1	206		2-1
	526	1	287	1	1-2
	529	2	636	1	2
	531	1	77		2
	538	1	174		2
	558	1	123		1-2
	586	2	418		2
	602	1	57		1-2
	平行叩き	1	228	1	1-1
	不明	230	34,149	9	1～2
	叩きなし	337	23,971	2	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	A (水道山)	3	1,405		1-1
(狭端部)	B1 (三轟)	6	1,192	3	1-1
	B2 (三轟)	12	4,756		1-1
無段(狭端部)	(三轟)	46	7,945	27	
広端部	(三轟)	65	14,893	24	
筒部破片	(三轟)	273	27,466	64	

女瓦・男瓦か不明1　143ｇ

ＳＫ－5出土瓦(Ⅳ期の土坑)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	15	2,178	3	1-1
	短縄B2(三轟)	12	2,070		1-1
	短縄B1orB2	27	1,566		1-1
	長縄	48	10,055	5	3
格子叩き	17BorC	1	80		2-2
	18AorB	1	305	1	2
	19	1	60		2
	28	1	132		2
	29	1	192		2
	35	1	83		2
	58	1	169		2
	58A	1	129		2
	71	1	1,478		2
	76A	2	701		1-2
	76B	1	266		1-2
	201B	1	737		2-2
	202	5	1,201	1	2-2
	205	1	125		2
	210	1	215		2
	211	1	115		2-1
	213	6	1,458	2	2-2
	217	1	75		2
	219B	1	122		2-1
	225A	1	669		1-1
	231B	2	507		1-2
	243	2	285		1-1
	247	5	1,291	1	1-1
	248	1	67		1
	251	1	217		1-2
	256	1	663		1-2
	269	1	277		1-2
	271	1	454		1-2
	273	2	600		1-2
	275	1	336	1	1-2
	281	1	346		1-2
	286A	1	610		1-2
	286B	1	608		1-2
	290	2	518		1-2
	291	2	234		1-2
	308A	1	800		1-2
	320	4	617		1-2
	342	1	81		1-2
	344	1	1,319	1	1-2
	364A	1	558		1-2
	385	1	198		2-2
	392	1	1,106		1-2
	397	1	54		2
	408	1	114		2
	464	1	665		2
	474	2	299		2
	477	1	978		2
	509	2	605		2
	531	1	278		2
	538	1	399		2
	不明	92	11,024	5	1～2
	叩きなし	97	10,059	5	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	A (水道山)	1	654		1-1
(狭端部)	B1 (三轟)	2	365		1-1
無段(狭端部)	(三轟)	17	7,954	10	
広端部	(三轟)	16	3,971	13	
筒部破片	(三轟)	95	11,882	33	

SK-10出土瓦(Ⅳ期以降の土坑)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	6	815		1-1
	短縄B2(三轟)	3	1,084		1-1
	短縄B1orB2	5	363		1-1
	長縄	63	13,300	8	3
格子叩き	23	1	433		2
	28	2	332		2
	29	2	494		2
	60	1	96		2
	76A	2	588		1-2
	138	1	238		2
	202	6	1,653	1	2-2
	203	1	66		2-2
	213	17	5,244	2	2-2
	215	1	240		2
	231B	2	200		1-2
	245	1	423		1-2
	249	1	365		1-2
	256	1	483		1-2
	262	1	501	1	1-2
	270	1	512		1-2
	272	1	161		1-2
	276	1	299		1-2
	286AorB	1	25		1-2
	291	1	583		1-2
	293	2	106		1-2
	309A	1	348	1	1-2
	342	1	277		1-2
	392	1	231	1	1-2
	402	1	616	1	2
	477	1	220		2
	586	2	445		2
	不明	70	10,186	3	1～2
	叩きなし	101	5,258	4	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	(三轟)	10	2,200	7	
広端部	(三轟)	23	7,343	10	
筒部破片	(三轟)	49	5,756	13	

ＳＫ－13出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	2	353		1-1
	短縄B1orB2	1	8		1-1
	長縄	1	167		3
格子叩き	109	1	84		2
	293	1	166		1-2
	531	1	233		2
	叩きなし	4	469		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B2 (三轟)	1	183		1-1
無段(狭端部)	(三轟)	1	129		
筒部破片	(三轟)	4	504	1	

SK-15出土瓦(Ⅳ期の土坑)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	3	155	1	1-1
	短縄B2(三轟)	23	3,467	2	1-1
	短縄B1orB2	21	1,819		1-1
	長縄	75	14,307	9	3
格子叩き	18B	2	739		2
	23	4	2,856		2
	28	44	6,446	2	2
	29	3	1,163		2
	44	1	131		2
	58A	1	135		2
	64	4	618		2
	70	1	270		2
	76A	1	189		1-2
	174A	1	63		2
	180	1	161		2
	184	2	523	1	2
	202	5	2,146		2-2
	205	1	134		2
	207B	1	665		2
	207C	1	463		2
	208	2	419		2
	213	3	922	1	2-2
	215	1	413		2
	219B	1	269		2-1
	224A	1	92		1-1
	225A	2	419		1-1
	247	2	304		1-1
	248	1	217		1
	249	2	540		1-2
	250B	1	174		1-2
	251	2	446		1-2
	252A	2	295		1-2
	258	1	293		1-2
	271	5	1,558	1	1-2
	273	3	1,470		1-2
	274	2	101		1-2
	281A	2	337		1-2
	281B	1	230		1-2
	285	1	42		1-2
	286B	1	89		1-2
	290	4	1,214	1	1-2
	291	2	347	1	1-2
	293	4	1,204		1-2
	302	5	1,226		1-2
	305	1	554		2-1
	340	1	724		1-2
	375	1	320		2-1
	398B	1	75		1-2
	425	2	487		1-1
	450	1	387		2-1
	466	2	1,108	1	1-2
	474	10	3,374	4	2
	479	1	138		2
	485	1	163		2
	527	1	68		2
	531	5	952		2
	532	1	338		2

	586	2	342		2
	626	1	842		2
	平行叩き	4	682		1-1
	不明	217	24,757	7	1～2
	叩きなし	343	18,990	15	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段	B1（三彫）	1	276		1-1
（狭端部）	B2（三彫）	4	2,645		1-1
無段(狭端部)	（三彫）	23	5,333	22	
広端部	（三彫）	43	10,191	23	
筒部破片	（三彫）	194	21,318	63	

女瓦・男瓦か不明4　884ｇ

ＳＫ－45出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	2	518	1	1-1
	短縄B2(三彫)	3	343		1-1
	短縄B1orB2	2	147		1-1
	長縄	1	62		3
格子叩き	205	1	137		2
	224A	1	109		1-1
	225A	1	227		1-1
	247	1	161		1-1
	265	1	106		1-2
	273	1	261		1-2
	305	2	359	1	2-1
	320	1	75		1-2
	平行叩き	3	84		1-1
	不明	20	1,568		1～2
	叩きなし	13	1,181		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	A（水道山）	1	420		1-1
（狭端部）	B1（三彫）	1	144	1	1-1
無段(狭端部)	（三彫）	3	479	2	
広端部	（三彫）	2	198		
筒部破片	（三彫）	23	1,953	5	

ＳＤ－3出土瓦(Ⅲ期南辺の東築地塀の内溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	14	1,904	3	1-1
	短縄B2(三彫)	28	7,376	7	1-1
	短縄B1orB2	29	3,429		1-1
	長縄	39	12,266	10	3
格子叩き	15	1	358		2-1
	17	1	158		2-2
	18A	1	373		2
	18B	3	1,369	2	2
	19	6	966		2
	23	3	2,221	1	2
	25	1	66		2
	28	17	3,677	2	2
	29	7	2,985	1	2
	31	3	663		2
	32C	1	712	1	2
	58A	1	545	1	2
	71	1	560		2
	76A	3	902		1-2
	76B	1	142		1-2
	88	1	82		2
	110	1	85		2
	130	1	189		2
	174A	3	389		2
	184	2	242	2	2
	202	2	631		2-2
	205	1	188		2
	207AorC	6	451		2
	208	4	1,328	2	2
	211	1	34		2-1
	213	1	1,082		2-2
	219	1	558		2-1
	222	1	507		2
	224A	1	63		1-1
	224C	1	293		1-1
	246E	1	381	1	1
	247	2	287	1	1-1
	248	1	294		1
	249	1	165		1-2
	252B	2	932		1-2
	256	3	946	1	1-2
	258	1	297		1-2
	270	1	508		1-2
	271	4	1,541		1-2
	272	1	530		1-2
	273	1	134		1-2
	274	1	428	1	1-2
	284	1	122		1-2
	285	1	466		1-2
	286	3	717		1-2
	290	3	2,305	3	1-2
	291	4	2,289	1	1-2
	293	7	2,956	2	1-2
	301	1	322		1-2
	302	1	247		1-2
	305	1	106		2-1
	308A	2	345		1-2
	320	4	1,499	2	1-2
	344	4	948	2	1-2
	370	1	320		1-1
	375	2	759		2-1
	380	1	536		2-1
	395	1	200		1-2
	398A	1	357		1-2
	466	2	573		1-2
	474	4	1,193		2
	475	1	523		2-1
	509	1	1,102	1	2
	531	5	476		2
	532	2	1061	1	2
	536	1	99		1-2
	586	1	154		2
	591B	1	603		2
	平行叩き	1	89		1-1
	不明	183	23,693	11	1～2
	叩きなし	208	14,376	15	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B1（三彫）				1-1
無段(狭端部)	（三彫）	21	4,580	20	
広端部	（三彫）	34	10,477	21	
筒部破片	（三彫）	231	27,829	71	

女瓦・男瓦か不明2　814ｇ

SD-3A出土瓦(Ⅲ期南辺の築地塀の内溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
格子叩き	531	1	394	1	2
	不明	1	67		1～2

SD-3B出土瓦(Ⅲ期南辺の築地塀の内溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	12	1,252	2	1-1
	短縄B2(三彫)	7	1,964	2	1-1
	短縄B1orB2	15	891		1-1
	長縄	6	1,248		3
格子叩き	17BorC	1	89		2-2
	17C	1	96		2-2
	19	2	253		2
	23	1	469		2
	76A	1	189		1-2
	180	1	178		2
	192	1	803	1	1-2
	213	2	273		2-2
	219A	1	344		2-1
	219B	2	784		2-1
	233	1	342		1-1
	248	1	160		1
	250A	1	114		1-2
	250B	2	164		1-2
	252A	1	114		1-2
	265	1	108		1-2
	270	1	428	1	1-2
	274	1	73		1-2
	284	1	240		1-2
	285	1	89		1-2
	286A	2	243		1-2
	294	1	918	1	1-2
	297	1	130		1-2
	302	2	789		1-2
	305	4	1,258		2-1
	320	1	68		1-2
	344	1	137	1	1-2
	369	1	711		1-1
	375	1	52		2-1
	406	1	250		2
	462	1	192		2
	466	1	388	1	1-2
	474	1	93		2
	485		135		2
	532	1	236	1	2
	538	2	619		2
	平行叩き	1	418		1-1
	不明	80	8,666	8	1～2
	叩きなし	120	8,676	6	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	A（水道山）	1	492		1-1
（狭端部）	B2（三彫）	2	455		1-1
無段(狭端部)	（三彫）	7	1,310	5	
広端部	（三彫）	14	3,770	6	
筒部破片	（三彫）	90	9,031	27	

ＳＤ－4出土瓦(Ⅲ期南辺の西築地塀の内溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	20	4,433	7	1-1
	短縄B2(三彫)	7	772		1-1
	短縄B1orB2	26	3,110		1-1
	長縄	4	515		3
格子叩き	2	1	57		2-1
	15	1	341		2-1
	17B	1	344		2-2
	18B	2	622		2
	19	6	869		2
	23	1	119		2
	29	2	393		2
	54	1	161		2
	58A	1	1,110	1	2
	71	1	65		2
	76A	1	222		1-2
	76AorB	1	386		1-2
	184	2	327		2
	202	2	634		2-2
	203	4	2,109		2-2
	205	1	135		2
	207B	1	282		2
	208	3	1,240		2
	209	1	298		2
	213	3	571		2-2
	224A	1	92		1-1
	249	1	574		1-2
	270	1	540	1	1-2
	271	2	442		1-2
	273	2	254		1-2
	274	1	290		1-2
	279	1	371		1-2
	281A	1	182		1-2
	284	1	205		1-2
	290	1	124		1-2
	291	2	250		1-2
	293	2	239		1-2
	300	3	454		1-2
	302	6	1,131		1-2
	305	3	995	1	2-1
	320	2	1,390	1	1-2
	387	1	381		2-1
	395	1	601		1-2
	398A	1	221		1-2
	432	1	331		2
	442	2	891		1-2
	458	1	392		2
	466	1	511		1-2
	477	1	102		2
	526	1	193		1-2
	527	1	482	1	2
	531	1	173		2
	564	1	157		1-2
	586	1	53		2
	不明	107	15,386	4	1～2
	叩きなし	111	8,884	12	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	B1（三彫）	1	239		1-1
（狭端部）	B2（三彫）	1	275		1-1
無段(狭端部)	（三彫）	9	1,949	6	
広端部	（三彫）	30	7,459	13	
筒部破片	（三彫）	89	12,022	19	

女瓦・男瓦か不明1　141ｇ

SD-4B出土瓦(Ⅲ期南辺の西築地塀の内溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	3	679		1-1
	短縄B2(三彫)	5	1,285	1	1-1
	短縄B1orB2	1	117		1-1
格子叩き	28	1	106		2
	76A	1	147		1-2
	202	1	435		2-2
	213	1	462		2-2
	250AorB	1	307	1	1-2
	250B	1	389		1-2
	251	1	164		1-2
	273	2	376		1-2
	274	1	159		1-2
	278	1	145		1-2
	300	1	165		1-2
	384	1	755	1	2
	395	2	280		1-2
	466	1	141		1-2
	不明	10	1,355		1～2
	叩きなし	8	900	1	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
広端部	（三彫）	4	498		
筒部破片	（三彫）	11	1,011	2	

ＳＤ－6出土瓦Ⅲ期南辺の東築地塀の外溝)

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	12	1,754		1-1
	短縄B2(三彫)	17	1,933	1	1-1
	短縄B1orB2	29	2,283		1-1
	長縄	9	1,280		3
格子叩き	19	3	792	1	2
	23	2	287		2
	24	1	168		2
	25	2	374		2
	28	5	1,050	1	2
	31	1	195		2
	33	1	261		2
	58	1	217		2
	64	1	86		2
	76A	1	201		1-2
	76B	1	70		1-2
	138	1	170		2
	202	2	1,189		2-2
	203	3	835		2-2
	207AorB	1	147		2
	208	2	1,353	1	2
	213	4	567		2-2
	215	1	45		2
	224	1	207		1-1
	225A	1	185		1-1
	242	1	236		1-1
	247	1	62		1-1
	249	4	771		1-2
	250B	1	135		1-2
	256	1	177		1-2
	265	1	30		1-2

271	2	358	1	1-2
273	2	358		1-2
274	3	344		1-2
276	3	289		1-2
281B	1	217		1-2
285	4	918		1-2
286	1	140		1-2
291	1	724	1	1-2
300	4	645	1	1-2
301	1	199		1-2
302	3	423		1-2
305	2	342		2-1
320	2	490		1-2
375	2	1,130	1	2-1
406	1	347	1	2
466	1	245		1-2
494	1	106		1-2
529	1	667		2
531	4	476		2
538	2	277		2
586	1	69		2
591B	1	266		2
平行叩き	1	69		1-1
不明	100	13,039	1	1～2
叩きなし	141	10,706	12	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式	A（水道山）	1	193	1	1-1
（狭端部）	B２（三龠）	1	1,538	1	1-1
無段(狭端部)	（三龠）	12	3,117	9	
広端部	（三龠）	14	2,142	6	
筒部破片	（三龠）	130	12,434	45	

男瓦・女瓦か不明1　　62ｇ

SD-6A出土瓦（Ⅲ期南辺の東築地塀の外溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	2	190		1-1
	短縄B2(三龠)	7	705		1-1
	短縄B1orB2	12	1,541		1-1
	長縄	3	592		3
格子叩き	17AorB	1	178		2-2
	76A	1	360		1-2
	184	1	198		2
	213	2	300		2-2
	248	1	205		1
	250B	1	414		1-2
	252A	2	540		1-2
	265	1	131	1	1-2
	273	1	226		1-2
	278	1	142		1-2
	344	1	160		1-2
	383	1	310		1-2
	474	1	249		2
	477	1	215	1	2
	538	1	253		2
	不明	28	4,051	2	1～2
	叩きなし	34	2,871	3	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	A（水道山）	1	299	1	1-1
無段(狭端部)	（三龠）	9	1,713	6	
広端部	（三龠）	9	2,768	4	
筒部破片	（三龠）	30	3,166	7	

SD-6B出土瓦（Ⅲ期南辺の東築地塀の外溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B2(三龠)	1	193	1	1-1
	短縄B1orB2	1	24		1-1
	長縄	11	818	1	3
格子叩き	184	1	361		2
	225AorB	1	86		1-1
	252AorB	1	164		1-1
	273	1	144		1-2
	276	1	60		1-2
	280	1	267		1-2
	308A	1	253	1	1-2
	317	1	441		1-2
	375	1	404		2-1
	538	1	346		2
	不明	15	2,101		1～2
	叩きなし	22	1,253		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B１（三龠）	1	45		1-1
無段(狭端部)	（三龠）	3	429		
広端部	（三龠）	4	246		
筒部破片	（三龠）	17	1,584	4	

SD-11出土瓦（近世の溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B2(三龠)	1	586	1	1-1
	短縄B1orB2	1	88		1-1
格子叩き	247	1	57		1-1
	291	1	661		1-2
	不明	5	584		1～2
	叩きなし	3	179		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B２（三龠）	1	512		1-1
筒部破片	（三龠）	1	151		

SD-12出土瓦（南大門造営時の土坑）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	6	610	1	1-1
	短縄B2(三龠)	4	1,205	3	1-1
	短縄B1orB2	5	504		1-1
格子叩き	76A	1	451		1-2
	207AorB	1	262		2
	249	1	306		1-2
	251	1	216		1-2
	273	1	178		1-2
	288	1	538		1-2
	290	2	357		1-2
	300	3	565		1-2
	474	1	326		2
	586	1	99		2
	不明	13	1686	1	1～2
	叩きなし	6	287		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	（三龠）	3	598	1	
広端部	（三龠）	6	974	2	
筒部破片	（三龠）	5	260		

SD-17出土瓦（Ⅲ期南辺の西築地塀外側溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	21	2,701	7	1-1
	短縄B2(三龠)	7	1,082	2	1-1
	短縄B1orB2	28	2,108		1-1
	長縄	7	1,160		3
格子叩き	17C	1	96		2-2
	19	1	169		2
	23	1	183		2
	29	2	256		2
	58A	1	278		2
	76A	2	243		1-2
	76AorB	1	139	1	1-2
	76B	1	274		1-2
	138	2	100		2
	202	1	142		2-2
	207	1	75		2
	219B	1	831		2-1
	225A	1	62		1-1
	249	3	392		1-2
	250B	4	419		1-2
	252AorB	2	578		1-2
	265	1	367	1	1-2
	273	5	1,944	1	1-2
	274	2	349		1-2
	279	1	270		1-2
	286B	1	174		1-2
	290	2	207		1-2
	293	1	254	1	1-2
	300	1	486	1	1-2
	302	2	330		1-2
	305	1	135		2-1
	313	2	450		1-2
	320	1	360	1	1-2
	343	1	359		1-2
	375	1	197		2-1
	474	2	550		2
	475	1	101		2-1
	531	1	147		2
	538	1	65		2
	633	1	144		2
	不明	86	9,484	3	1～2
	叩きなし	46	5,003	3	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段	A（水道山）				1-1
（狭端部）	B２（三龠）	4	687		1-1
無段(狭端部)	（三龠）	4	1,113	3	
広端部	（三龠）	13	1,958	6	
筒部破片	（三龠）	81	8,569	26	

SD-22出土瓦（南大門造営時の土坑）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B2(三龠)	1	48	1	1-1
	短縄B1orB2	3	226		1-1
格子叩き	58	1	117		2
	不明	2	116		1～2
	叩きなし	6	275		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
筒部破片	（三龠）	4	172	1	

SD-23出土瓦（南大門の北辺雨落溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	1	133		1-1
	短縄B1orB2	4	478		1-1
	長縄	2	174		3
格子叩き	213	1	39		2-2
	258	1	533	1	1-2
	271	1	131		1-2
	273	1	101		1-2
	302	1	171		1-2
	不明	19	1,988		1～2
	叩きなし	27	968		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	（三龠）	1	183		
広端部	（三龠）	6	1,109	5	
筒部破片	（三龠）	15	868	3	

SD-24出土瓦（南大門造営時の土坑）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	2	117	1	1-1
	短縄B1orB2	2	208		1-1
格子叩き	28	2	112		2
	273	1	146		1-2
	302	1	210		1-2
	320	1	63		1-2
	458	1	148		2
	不明	8	967		1～2
	叩きなし	8	686	2	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	（三龠）	2	131	1	
筒部破片	（三龠）	21	1,182	3	

SD-25出土瓦（近世の溝）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	1	65		1-1
	短縄B1orB2	1	187		1-1
	長縄	3	1,989	2	3
格子叩き	平行	1	30		1-1
	不明	4	300		1～2
	叩きなし	3	239		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B１（三龠）	1	318		1-1
無段(狭端部)	（三龠）	2	91		
広端部	（三龠）	1	273		
筒部破片	（三龠）	4	529	1	

ＳＤ－38出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	8	951	2	1-1
	短縄B2(三龠)	4	863		1-1
	短縄B1orB2	11	1,070		1-1
	長縄	4	619		3
格子叩き	17BorC	1	149		2-2
	23	2	747	1	2
	28	7	867	1	2
	29	3	659		2
	32C	1	203		2
	76A	2	733	1	1-2
	76B	1	513	1	1-2
	180	1	182		2
	184	1	228	1	2
	202	2	829		2-2
	207A	1	67		2
	207B	2	129		2
	213	4	1,401		2-2
	215	1	79		2
	219A	1	200		2-1
	219B	1	126		2-1
	245	1	311	1	1-2
	249	1	320	1	1-2
	250B	1	217	1	1-2
	261	1	224		2-2
	265	2	160		1-2
	273	5	1,175		1-2
	276	1	188		1-2
	290	1	1,266	1	1-2
	291	1	107		1-2
	293	1	290		1-2
	305	1	258		2-1
	320	1	209		1-2
	344	1	315	1	1-2
	387	1	236		2-1
	397	1	160		2
	458	1	148		2
	466	1	62		1-2
	不明	58	7,454	1	1～2
	叩きなし	57	5,682	1	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段(狭端部)	B２（三龠）	1	429		1-1
無段(狭端部)	（三龠）	16	2,136	10	
広端部	（三龠）	15	3,778	6	
筒部破片	（三龠）	47	5,651	15	

SD-41出土瓦（南大門造営時の土坑）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	4	2225		1-1
	短縄B1orB2	1	25		1-1
格子叩き	208	1	220		2
	285	1	105		1-2
	不明	9	619		1～2
	叩きなし	8	396		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	（三龠）	2	288	1	
広端部	（三龠）	1	246		
筒部破片	（三龠）	12	760	3	

ＳＤ－47出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	7	2,343	1	1-1
	短縄B2(三龠)	2	271		1-1
	短縄B1orB2	3	397		1-1

格子叩き	250B	1	362		1-2
	265	1	191	1	1-2
	285	1	125		1-2
	不明	2	410		1～2
	叩きなし	9	425	1	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	(三龠)	2	668	1	
筒部破片	(三龠)	7	1,103	4	

ＳＡ－7出土瓦（南辺西築地塀）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
格子叩き	344	1	665	1	1-2

ＳＡ－8出土瓦（南辺東築地塀）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B2(三龠)	1	121		1-1
格子叩き	31	1	380		2
	531	1	46		2
	叩きなし	2	99		1～2

SX-27出土瓦（近世の土坑）

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
格子叩き	286B	1	429		1-2

ＳＸ－44出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
格子叩き	207A	1	210		2
	不明	4	461		1～2
	叩きなし	5	94		1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
無段(狭端部)	(三龠)	1	109	1	
広端部	(三龠)	1	155	1	
筒部破片	(三龠)	2	67		

ＳＸ－46出土瓦

①女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	1	156		1-1
	短縄B2(三龠)	6	946	1	1-1
	短縄B1orB2	6	539		1-1
	長縄	19	3,280	3	3
格子叩き	17BorC	1	245		2-2
	19	1	462		2
	29	1	151		2
	31	1	244		2
	58	1	218		2
	64	1	86		2
	76A	1	201		1-2
	201A	1	324		2-2
	201AorC	1	114		
	202	3	671		2-2
	203	1	259		2-2
	206	1	161		2
	207B	1	431		2
	208	1	334		2
	213	5	985	2	2-2
	224	1	985		1-1
	228	1	487		1-1
	242	1	237		1-1
	245	2	246		1-2
	247	4	1,105	1	1-1
	248	2	268	1	1
	250AorB	1	53		1-2
	252B	1	287		1-2
	262	2	352		1-2
	271	1	90		1-2
	273	2	358		1-2
	274	2	385		1-2
	276	2	116		1-2
	285	2	301		1-2
	286AorB	1	399	1	1-2
	300	1	106		1-2
	302	1	124		1-2
	305	4	1,009		2-1
	307	1	544		1-2
	308	1	539		1-2
	320	2	613	1	1-2
	425	1	156		1-1
	466	1	377		1-2
	474	1	263	1	2
	477	1	217		2
	484	1	395		1-2
	529	1	667		2
	531	1	172		2
	538	1	116		2
	586	1	365		2
	591B	1	266		2
	平行叩き	1	131		1-1
	不明	74	10,080		1～2
	叩きなし	123	13,630	5	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式(狭端部)	A（水道山）				1-1
	B1（三龠）	1	62		1-1
	B2（三龠）	3	714		1-1
無段(狭端部)	(三龠)	5	931	1	
広端部	(三龠)	11	2,129	5	
筒部破片	(三龠)	77	7,745	24	

女瓦・男瓦か不明2　265ｇ

第7表　南大門地区遺構外出土女瓦一覧表

・女瓦

	型押文番号	破片数	総重量	隅数	時期
縄叩き	短縄B1	344	58,464	42	1-1
	短縄B2（三龠）	756	134,293	96	1-1
	短縄B1もしくはB2	1,040	105,223		1-1
	長縄	1,156	213,842	100	3
格子叩き	3B	1	86		2
	15	2	861		2-1
	17	7	1,369		2-2
	17B	1	267		2-2
	19	9	1,701		2
	21	1	684	1	2
	23	8	1,301		2
	28	10	1,253		2
	29	1	325		2
	31	17	5,858	3	2
	37	6	1,171		2
	40	1	126		2
	50	1	256		2
	54	1	137		2
	58	3	1,200		2
	58A	2	219		2
	60	5	1,002		2
	69	1	111		2
	71	2	893		2
	76A	30	8,479	4	1-2
	76C	10	3,110	1	1-2
	79	1	238		2
	89	1	653	1	2
	109	2	1,397	1	2
	115	2	329		2-1
	116C	1	308		2
	138	4	1,148		2
	167	2	126		2
	170	1	161		2
	173	4	433		2
	180	2	341		2
	184	6	2,026		2
	192	4	1,357	1	1-2
	201AorB	9	1,531		2-2
	202	44	11,489	5	2-2
	203	1	175		2-2
	205	2	324		2
	206	2	757		2
	207A	2	187		2
	207BorC	4	431		2
	208	34	7,559	3	2
	208A	1	204		2
	209	1	210		2
	211	2	202		2-1
	212	1	266		2
	213	170	36,006	17	2-2
	215	16	2,733	1	2
	217	2	1,102		2
	219B	21	8,251	2	2-1
	222	1	205		2
	223	1	122		2
	224	29	4,312	1	1-1
	224C	3	858		1-1
	225A	55	11,522	1	1-1
	225B	5	1,497	1	1-1
	226	3	1,179		1-1
	227AorB	10	2,059		1-1
	228A	3	1,257		1-1
	229	2	420		1-1
	231B	3	1,122		1-2
	232	2	542		1-1
	233	3	926		1-1
	234	1	146		1-1
	241	1	385		1-1
	243	3	818		1-1
	245	10	2,355		1-2
	246A	2	1,010		1
	246B	1	396		1
	246E	1	489		
	247	90	19,677	7	1-1
	248	49	12,951	2	1
	249	26	6,819	2	1-2
	250A	5	1,324		1-2
	250B	22	5,037	1	1-2
	251	5	710		1-2
	252A	26	5,754	3	1-2
	252B	16	3,035		1-2
	253	1	901		3-2
	256	3	852		1-2
	257	8	3,126		1-2
	258	5	1,806	1	1-2
	261	1	105		2-2
	262	18	4,620	2	1-2
	265	8	2,505	2	1-2
	266	1	776		
	268	1	233		1-2
	269	4	1,447	1	1-2
	270	1	321		1-2
	271	43	10,374	8	1-2
	272	2	739	1	1-2
	273	49	13,172	4	1-2
	274	27	6,055	1	1-2
	276	14	5,284	4	1-2
	278	6	2,146		1-2
	279	3	733		1-2
	280	1	781	1	1-2
	281A	6	1,814	2	1-2
	281B	1	727		1-2
	282	2	776	1	1-2
	284	15	3,792		1-2
	285	7	1,988		1-2
	286A	9	2,826		1-2
	286B	27	6,521		1-2
	288	1	455		1-2
	290	52	12,374	5	1-2
	291	29	4,748	5	1-2
	292	3	642		1-2
	293	17	3,431	2	1-2
	294	1	168		1-2
	295	2	440		1-2
	300	18	4,679	3	1-2
	301	14	3,682		1-2
	302	19	4,086		1-2
	305	30	7,668	2	2-1
	307	2	529		1-2
	308A	7	1,436		1-2
	308B	6	1,448	2	1-2
	309A	1	370		1-2
	313	1	197		1-2
	315	3	666	1	1-2
	317	3	1,325		1-2
	320	63	19,181	4	1-2
	326	2	477		1-2
	329A	3	770		1-2
	329E	1	98		1-2
	333	1	93		1-2
	334	5	1,086		1-2
	335	1	271		1-2
	339	1	373		1-2
	342	12	4,201	3	1-2
	343	5	510		1-2
	344	7	2,694	2	1-2
	351	1	450		1-2
	356	2	786	1	1-2
	357	2	1,040	1	1-2
	359	1	121		1-2
	369	2	927		1-1
	375	13	5,482	6	2-1
	379	1	323		1-2
	380	4	1,345	1	2-1
	383	1	187		1-2
	384	1	178		2
	385	3	1,279	1	2-2
	391	1	576		1-2
	392	2	257		1-2
	395	3	738		1-2
	397	4	1,104		2
	398A	4	1,474		1-2
	398B	11	2,120		1-2
	402	1	357		2
	415	1	161		2-2
	425	1	431		1-1
	437	1	82		2
	443	1	345		2
	445	1	293		1-2
	450	6	2,186		2-1
	451	1	212		2
	453	1	330		2
	454	4	1,694	1	2-1
	458	7	2,415	1	2
	462	1	158		2
	464	16	6,819	1	2
	465	2	685		1-2
	466	42	11,969	4	1-2
	474	60	12,955	3	2
	475	3	695		2-1
	477	16	3,345	1	2
	483	1	223		2
	484	2	718		1-2
	490	1	487		1-1
	494	5	773		1-2
	495	1	724		2
	496	1	242		2
	503	1	251		2
	509	6	2,559		2
	512	1	274		2
	514	1	163		2
	515	3	696		2
	527	11	2,684	1	2
	531	41	6,716	1	2
	532	2	769	1	2
	533	2	800	1	1-2
	538A	13	3,958	2	2
	549B	4	777	1	1-2
	554	2	240		1-1
	562	1	275		1-2
	564	4	999	1	1-2
	577	3	896		2
	581	1	267		2
	583	1	152		2
	586	38	9,681	4	2
	591B	6	1,039	1	2
	602	1	114		1-2
	611	1	444		2
	612	1	806		2
	613	1	296		2

	614	1	922	1	2
	615	1	353		2
	616	2	899		2
	617	1	273		2
	618	1	294		2
	619	1	452		2
	620	1	262		2
	621	1	785		2
	622	1	409		2
	623	1	427		2
	625	1	308		2
	626	1	204		2
	627	1	599		2
	628	1	586		2
	629	1	252		2
	630	1	586		2
	631	1	276		1-2
	632		209		2
	633				2
	平行叩き	170	21,404		1-1
	不明	5,713	673,262	160	1～2
	叩きなし	5,896	434,632	288	1～2

②男瓦

	型式	破片数	総重量	隅数	時期
有段式（狭端部）	A（水道山）	17	6,375		1-1
	B1（三福）	78	15,254	5	1-1
	B2（三福）	86	23,286	2	1-1
無段(狭端部)	（三福）	348	78,164	292	
広端部	（三福）	410	91,758	211	
筒部破片	（三福）	6,438	600,102	1,011	

粘土紐巻男瓦					時期
狭端部	（三福）	2	192	1	2
広端部	（三福）	3	309	1	2
筒部破片	（三福）	27	1,808	2	2

※　本稿は、平成12年度　第２回「ふるさととちぎ歴史文化研究奨励賞」の研究成果の一部である。